

令和元年度 青少年交流事業
アメリカ・ヒューストン市派遣
帰国報告書

公益財団法人千葉市国際交流協会



目次

1. 派遣概要	3
2. 滞在日程	3
3. 研究レポート	6
(1) ボランティアへの意識の違い 萱原 千尋	
(2) LGBTQ+に関する意識の違いについて 戸崎 奏	
(3) 日本とアメリカのお小遣いの使い方 永野 友莉	
(4) 日本とアメリカの学校生活の1日 原田 奈和	
(5) 日本とアメリカの学校の違い 堀辺 蒼空	
4. 滞后感想文（日本語／English）	28
(1) Precious Days／Precious Days 萱原 千尋 Chihiro Kayahara	
(2) 貴重な体験／Precious time I had in Houston 戸崎 奏 Kanade Tozaki	
(3) 世界へ踏み出す一歩／A step in to the world 永野 友莉 Yuri Nagano	
(4) “ハグ”で溢れた滞在／A stay full of “hugs” 原田 奈和 Nana Harada	
(5) ヒューストンの人々とふれて／Houston People 堀辺 蒼空 Sora Horibe	
(6) 百聞は一見に如かず／Seeing is Believing 千葉市立幸町第二中学校 教諭 宮脇 美郷(引率者) Misato Miyawaki (Chaperon)	
5. 記録写真（思い出の写真）	40

1. 派遣概要

- (1) 派遣都市 アメリカ合衆国テキサス州ヒューストン市
 (2) 派遣期間 令和元年8月16日(金)～30日(金)
 (3) 派遣者 中学生5人、引率者1人
 (4) 滞在形態 一般家庭にホームステイ
 (5) 現地受入機関 ヒューストン日米協会
 Japan-America Society of Houston (略称 JASH)
 (6) 現地受入校 River Oaks Baptist School (略称 ROBS)

2. 滞在日程

日付	内容
8月16日(金)	<p>出国</p> <p>8:45 成田空港第1ターミナル集合</p> <p>11:30 出国(全日本空輸株式会社)</p> <p>9:30 ヒューストンジョージブッシュ国際空港到着</p> <p>11:45 日米協会事務所ビル到着</p> <p>ホストファミリーと対面、各家庭へ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> 空港到着時 ホストファミリー達と対面 </p>
8月17日(土)	それぞれのホストファミリーとの休日
8月18日(日)	それぞれのホストファミリーとの休日
8月19日(月)	<p>NASA見学ツアー</p> <p>10:30 NASA到着、見学</p> <p>バスツアーや展示を見学、VRを体験</p> <p>12:00 昼食</p> <p>14:00 NASA出発</p> <p>18:00 日米協会総会出席、各自自己紹介</p>

日 付	内 容
8月19日(月)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> NASAのモニュメント前にて 日米協会総会出席時 </p>
8月20日(火)	<p>ダウンタウン見学、フードバンク活動に参加</p> <p>10:30 ダウンタウンのウォールアートを見学</p> <p>11:30 昼食</p> <p>13:00 フードバンク活動に参加</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> アート作品の前でジャンプ! 表を見て仕分けをしました。 </p>
8月21日(水)	<p>River Oaks Baptist School 1日目</p> <p>8:00 登校 授業開始</p> <p style="padding-left: 40px;">それぞれのホスト生徒と一緒に授業参加</p> <p>15:30 授業終了 下校</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> 7th gradeの生徒と一緒に IMAGE (7th grade) </p>
8月22日(木)	<p>River Oaks Baptist School 2日目</p> <p>8:00 登校 授業開始</p> <p style="padding-left: 40px;">それぞれのホスト生徒と一緒に授業参加</p>

日 付	内 容
8月22日(木)	<p>15:30 授業終了 下校</p>   <p>先生方にあいさつをしました。優しい先生方でした。</p>   <p>8th grades 学年レクはチーム対抗でミニゲーム攻略大会！！</p>
8月23日(金)	<p>River Oaks Baptist School 3日目</p> <p>8:00 登校 授業開始 それぞれのホスト生徒と一緒に授業参加</p> <p>15:30 授業終了 下校</p> <p>18:30 ミニッツメイドパークにて試合観戦 ASTROS vs ANGELS、試合後には花火を満喫</p>   <p>Spanish (8th grade) Bible (8th grade)</p>

日 付	内 容
8月23日(金)	  <p data-bbox="564 618 815 651">Bible (8th grade)</p> <p data-bbox="954 618 1326 651">試合は見事ASTROSの勝利！！</p>
8月24日(土)	それぞれのホストファミリーとの休日
8月25日(日)	それぞれのホストファミリーとの休日
8月26日(月)	<p data-bbox="507 842 991 875">River Oaks Baptist School 4日目</p> <p data-bbox="544 887 879 920">8:00 登校 授業開始</p> <p data-bbox="683 931 1214 965">それぞれのホスト生徒と一緒に授業参加</p> <p data-bbox="512 976 879 1010">15:30 授業終了 下校</p>   <p data-bbox="564 1357 831 1391">Science (8th grade)</p> <p data-bbox="1023 1357 1321 1391">Fine arts (8th grade)</p>   <p data-bbox="539 1738 1289 1771">7th grade & 8th gradeによさこいを披露し、拍手喝采！！</p>
8月27日(火)	<p data-bbox="507 1796 991 1830">River Oaks Baptist School 5日目</p> <p data-bbox="544 1841 879 1874">8:00 登校 授業開始</p> <p data-bbox="683 1886 1214 1919">それぞれのホスト生徒と一緒に授業参加</p> <p data-bbox="512 1930 879 1964">15:30 授業終了 下校</p>

日 付	内 容
8月27日(火)	<p>18:30 Farewell Party</p>   <p>Partyにて、よさこいをホスト生徒達にも教えました！！</p>
8月28日(水)	<p>River Oaks Baptist School 6日目</p> <p>8:00 登校 授業開始 それぞれのホスト生徒と一緒に授業参加</p> <p>11:30 ヒューストン市役所表敬訪問</p> <p>15:30 授業終了 下校</p>   <p>日米の贈呈品の交換</p>   <p>千葉はここにあります！！</p> <p>会議室に実際に入って席に座らせていただきました。</p>

日 付	内 容
8月28日(水)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>似顔絵を描いてくれました。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>カフェテリアに集合。</p> </div> </div>
8月29日(木)	<p>帰国</p> <p style="text-align: center;">8 : 15 日米協会事務所ビル集合 11 : 30 成田空港へ向けて出国 (全日本空輸株式会社)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>日米協会事務所で一枚！</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>いよいよ日本へ向かいます。</p> </div> </div>
8月30日(金)	<p>15 : 20 成田空港到着、解散</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>無事に帰国、感謝の気持ちでいっぱいです。</p>

3. 研究レポート

ボランティアへの意識の違い

萱原 千尋

<テーマ選定理由>

私は、学校の授業の題材でボランティアについて興味を持った。また、アメリカでは若者たちが積極的にボランティア活動を行っていることから、アメリカと日本のボランティアの在り方の違いについて調べてみることにした。

<内容>

アメリカと日本のボランティアの在り方について調べる。

そして、その結果からこれからどのように日本のボランティア活動を発展させていくべきか考える。

<研究方法>

- ・アンケート調査

私の通っている千葉大学教育学部附属中学校 2年A組の生徒 34人

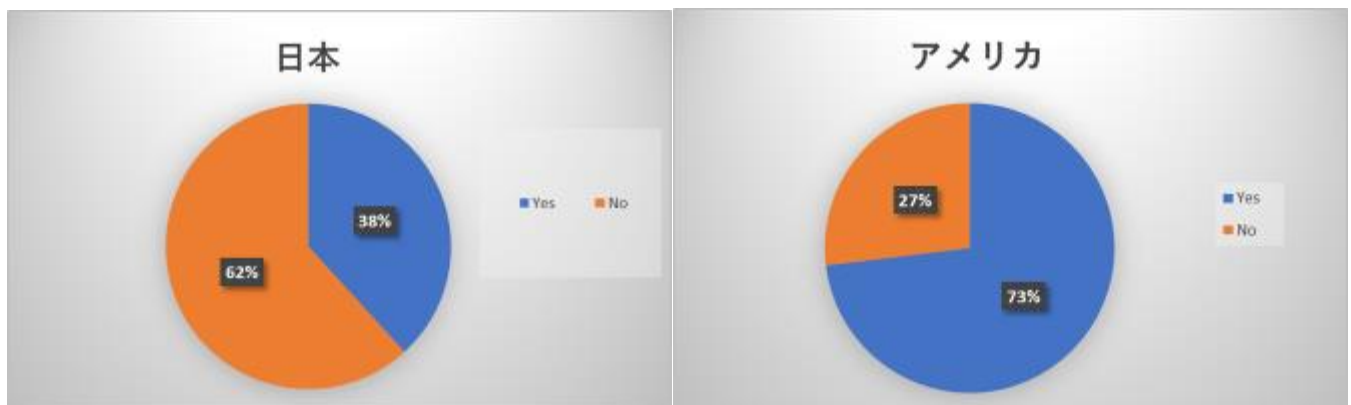
訪問した River Oaks Baptist School の生徒 26人

- ・現地の Houston Food Bank での観察
- ・文献調査

<結果>

- ・アンケート調査

Q1 ボランティアの経験はありますか？



ボランティアの経験は、アメリカの中学生が日本の中学生より多い。

→アメリカの方がボランティアに積極的

Q2 どんなボランティアを行いましたか？

<日本>

- ・学校行事、公園、地域でゴミ拾い ・募金

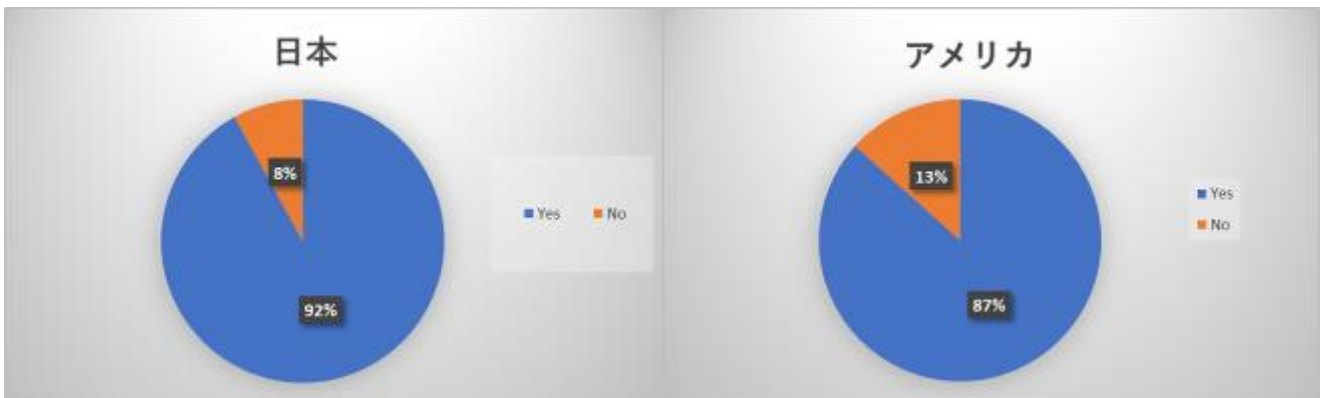
・津波を止める木の植樹（エコプロ、里山プロジェクト）

<アメリカ>

- ・募金 ・病院の子供のためにブランケットづくり ・ゴミ拾い
 - ・フードバンクでの活動 ・昼食づくりとタオルの洗濯
 - ・ハリケーンが来た後に、家を直した ・スープキッチンで活動した
- 募金やゴミ拾いはどちらも行われていた。

しかし、アメリカの方がどこかに行って、ボランティアを行っている印象だった。

Q3 ボランティアに関心・興味はありますか？



ボランティアに対する興味は日本が若干高かったがアメリカとの明確な差はなかったように感じる。

Q4 どんなボランティアをしてみたいですか？

<日本>

- ・ゴミ拾い ・掃除 ・募金 ・災害時の動物保護 ・ペットボトルキャップ集め
- ・チャリティーウォーク ・植樹 ・国外でのボランティア
- ・東京オリンピック・パラリンピックでのボランティア

<アメリカ>

- ・レモネードスタンドをやってみたい ・飢えた子供とホームレスを助けたい
- ・動物保護施設で働きたい ・子供を助けたい ・水を寄付したい

日本はボランティアのイベントや、オリンピック・パラリンピックに関する事など、短期間又は一時的な活動が多いように感じた。それに対しアメリカは、日常的に行う活動が多いように感じた。

Q5 皆さんにとってボランティアのイメージとはどのようなものですか？

<日本>

- ・人助け ・誰かのためになる ・何かがよくなるもの ・助け合い
- ・心温まるもの ・人のためになることを自ら行う ・お金を目的としない
- ・優しい人がやるイメージ ・あまり身近でないが必要なもの

<アメリカ>

- ・すごくいいアイデア ・楽しい ・賢い ・ボランティアはカッコいい

- ・役に立つ ・人を助けるために時間を使う

アメリカと日本を比べると、アメリカは当事者意識がある回答なのに対し日本は他人事のような回答もいくつかあった。

- ・Houston Food Bank での観察

施設は工場のような広さでトラックが何十台もあった。中は大きなレーンがあり、日本とは比べ物にならないくらいの大ささだった。一緒に活動を行ったボランティアは、会社の団体のような感じだった。



↑ヒューストンフードバンク施設内

- ・文献調査

☆アメリカでボランティア活動が普及している理由

- ・全米レベルのボランティアプログラムでは補助金が出る
- ・コミュニティサービス、サービスラーニングがある
- ・宗教的背景（隣人愛）
- ・小さい頃からの教育

☆ボランティア人口

- ・日本 約707万人（2017年） 全体の約5.5パーセント

この時の日本の人口約1億2700万人

- ・アメリカ 約7734万人（2018年、成人のみで） 全体の約24パーセント

この時のアメリカの人口約3億2000万人

～これからのボランティア活動への提案～

- ・日本は災害の多い国である。⇒ボランティアが必要
- ・アメリカでは子供の頃からボランティアをしている。⇒ボランティア教育の必要性

～感想～

ボランティアの意識は、日本とアメリカで大きな違いがあることがわかった。また、最近日本ではボランティアへの関心が高まっている。ますますボランティアの必要性は高まっていくのではないかと思う。今回の経験を同年代に伝えて、これからは生かしていきたい。

LGBTQ+に関する意識の違いについて

戸崎 奏

<テーマ選出理由>

私は幼い頃から海外ドラマや映画にふれる機会が多かったからか、LGBT (LGBTQ+) という存在はそんなに遠いものではありませんでした。

しかし、近年は世間的に関心が高まってきているといっても、普段の生活ではなかなか話題にはならないトピックだと思います。そこで、この機会を利用して自分と同世代(13から14歳ぐらい)の人たちがどのような考えを持っているのか知りたいと思いました。

<内容と方法>

自分で作成したLGBTに関するアンケートを日本とヒューストンの学校で実施する。そしてそのアンケート結果からわかること、気づいたことをまとめる。

<アンケート調査>

私の通っている東邦大付属東邦中学校の生徒 36 人

ヒューストンで通った River Oaks Baptist School の生徒 4 人

(ヒューストンではクラスで行う時間が無かったため、仲良くなった友達に答えてもらいました。)

<アンケート結果>

Q1 「LGBT」または「性的少数者(性的マイノリティー)」という言葉を知っていましたか?

Do you know about “LGBT” or “sexual minority”?

日本 86% ①言葉も意味も知っていた

6% ②言葉は知っていたが意味は知らなかった

8% ③知らなかった

US 100% ①言葉も意味も知っていた

知名度はやはりアメリカの方が高いことがわかります。

しかし、日本でも意味も知っている人の割合も私が予想していたよりは高かったです。

また、日本ではLGBTの意味を知らない人も何人かいました。

LGBTについて学ぶとができる機会をもっとつくるべきだと感じました。

Q2 もし身近な人(家族や友人など)がLGBTだったとしても、
あなたはこれまでと変わりなく接することができると思いますか？

If you have any LGBT people around you, can you accept them without any uneasiness?

日本 58% ①できる
0% ②できない
42% ③わからない

US 75% ①できる
0% ②できない
25% ③わからない

この質問に関しては、日本とヒューストンであまり差がないように感じました。

できると答えた人が多い中で、わからないと答えた人もいました。

私は、このような状況になったときに、困惑してしまう人も多いと思います。

しかし、ただ話を聞いてあげるだけでも、その相談してくれた人にとって大きな助けになるのではないかと思います。

Q3 LGBTについて学ぶ機会をもっとつくるべきだと思いますか？

Do you think we should offer more opportunities to learn about LGBT?

日本 44% ①思う
36% ②どちらかといえば思う
17% ③どちらかといえば思わない
3% ④思わない

US 50% ①思う
50% ②どちらかといえば思う
0% ③どちらかといえば思わない
0% ④思わない

日本でもアメリカでも多くの人がLGBTについて学ぶ機会をもっとつくるべきと考えていることがわかります。

また、なぜそう思うのか理由を聞いてみました。

日本 17% ①LGBT についての知識がないから

36% ②正しい情報を知りたいから

22% ③自分ではあまり調べようとはしないから

25% ④その他

(LGBT への理解がまだあまりないから、差別や偏見などがあるからなど)

US 0% ①LGBT についての知識がないから

50% ②正しい情報を知りたいから

0% ③自分ではあまり調べようとはしないから

50% ④その他

(LGBT の方々も対等に扱われるべきだから、社会の現状を知りたいから)

これらの回答から、日本もヒューストンの生徒も LGBT に関しての正しい情報を求めているのではないかと思いました。

そして、日本の生徒の中には、自分ではあまり調べようとはしないという意見も多くありました。

芸能やスポーツのように、自分で調べなくても情報が入ってくるような社会がもしできたら、もっと知名度も上がるのかなと思いました。

また、私の通っている学校では、

制服を男子用、女子用に変えることができる、他の生徒や保護者向けに説明会を開催するなどして、LGBT の生徒をサポートしています。

Q4 あなたが学校や日常生活で自分らしいと感じる瞬間はありますか？

(素の自分を出せる瞬間はありますか?)

Do you enjoy being yourself?

日本 48% ①ある

42% ②たまにある

9% ③ない

US 75% ①ある

25% ②たまにある

0% ③ない

日本でもヒューストンでも、ほとんどの人が自分らしいと感じることができる時があ

ると回答しました。

そして、それはどんなときなのか聞いてみると日米共通で、**趣味や部活をやっているときや、**

自分の事を気にかけてくれる人、居心地のいい人と一緒にいるときということがわかりました。

<まとめ>

・日本とアメリカで大きな差が出たところはあまり無かった。

→国や人種の問題では無く、**まわりの環境や個人の問題**として扱ってもいいのではないかな。

・日本でもヒューストンでも LGBT のことについて知りたいと思っている人が多かった。

→**正しい、正確な情報を手に入れやすい環境を**作っていくべきだ。

・人はみんな社会の流行と違うものを持っていて、
時にはそれが社会での生きづらさを作ってしまうのだと思う。

→その違いを排除しようとするのではなく、**認め、リスペクトする**ようになれば、
みんなが自分らしく楽しむことができる社会を作っていけるのだと私は思う。

<感想>

私がこのテーマに決めた理由は、LGBT のことだけにスポット当てた訳ではなく、みんなが自分らしくいることができ、楽しい生活を送ることができる社会を作っていきたいからです。

そのためには色々な問題が現状ありますが、LGBT について知ってもらおうということも大事なことだと思いました。私は、知らないから怖がってしまったり、避けようとしてしまうことがあると思います。でも知ったら、理解したら、怖いという気持ちはなくなると思います。

だから正しいことを知ってもらい、広めていくという行動を大切にしていきたいなと思います。

みんながいつも自分らしくいられる社会になりますように！

日本とアメリカのお小遣いの使い方

永野 友莉

〈テーマ選定理由〉

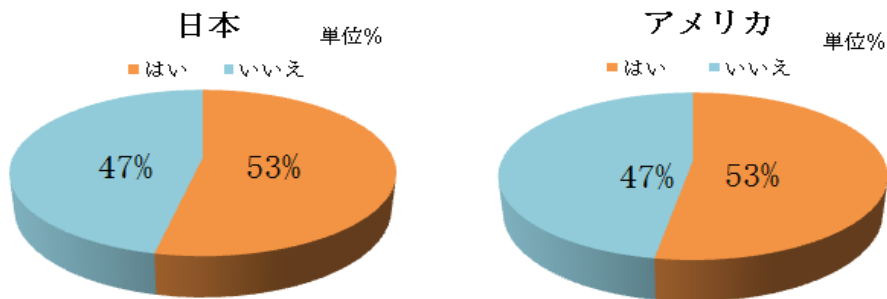
私は両親から月々決まった金額のお小遣いを貰っています。お小遣いで自分の欲しい物を購入したり、友達と遊ぶ時に使用しています。同世代のアメリカの子供達は、どの位お小遣いを貰い、どのように使用しているのか。また、友達と何処に遊びに行っているのか調べてみようと思いました。

〈調べる方法〉

1. 通っている中学校のクラスメイトとROBSのクラスメイトにアンケートを実施する。
2. ホストシスターやその友達と一緒に遊びに行く。
何処に行くのか？ 何をしているのか？ 何を買っているのか？
3. 気になった疑問点はホストシスターや友達に聞き取りしてみる。

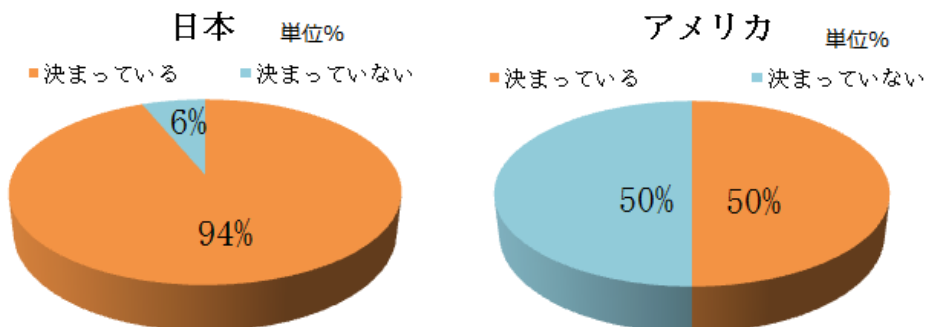
〈アンケート結果〉（日本は30人、アメリカは19人から回答）

1. お小遣いを貰っていますか？



お小遣いを貰っている割合は、日本もアメリカも変わらない。日本もアメリカも「いいえ」と答えた人の中に、出かける時だけ貰うとの意見が複数あった。

2. 『はい』と答えた人でお小遣いの金額が決まっている人の割合



日本の学生は金額が決まっている割合が多い

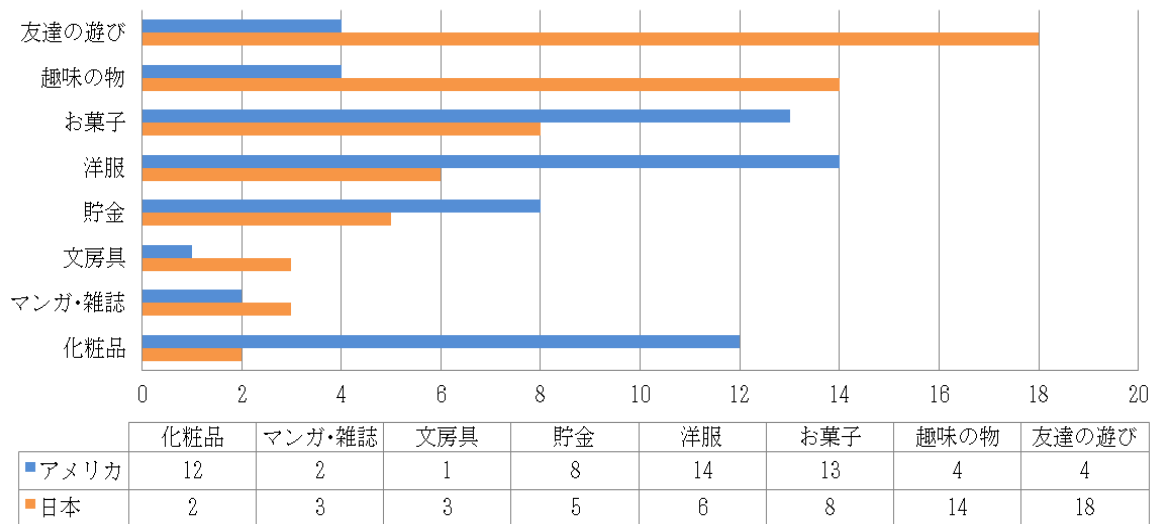
3 お小遣いを貰っている金額はいくらですか？

日本						アメリカ (現地通貨にて比較 1\$=107円として換算※9/9時点)					
~1,000円	~2,000円	~3,000円	~4,000円	~5,000円	それ以上	~20\$	~30\$	~50\$	~80\$	~100\$	~150\$
2人	7人	3人	1人	1人	1人	3人	0	0	0	1人	1人

アンケート内で一番多かった回答欄で比較を実施した。日本とアメリカでは、月々貰っているお小遣いの金額に大きな差が無い事がわかった。アメリカでは中学生としては大金と思われる金額を貰っている人もいた。

4 お小遣いは何に使っているのか？ (全員の回答結果より 複数回答有)

お小遣いで何を買っている？



日本と違い、アメリカでは友達との遊びに費やすとの回答が少ない事に意外性を感じた。逆に洋服や化粧品へ費やす割合が高く、同じ中学生でも、文化の違いで購入する項目が大きく違っていた。

5 出かける際にいくら使う？

日本							アメリカ (現地通貨にて比較 1\$=107円として換算※9/9時点)						
~500円	~1,000円	~2,000円	~3,000円	~4,000円	~5,000円	それ以上	~10\$	~20\$	~30\$	~40\$	~50\$	~100\$	それ以上
2人	6人	11人	8人	1人	1人	1人	1人	3人	6人	5人	2人	2人	0人

日本の学生は出かけた際に費やす金額が、2,000円~3,000円の割合が最も多く、アメリカの学生は、30\$~40\$ (3,210円~4,280円) と費やす金額はアメリカの方が多い。

<現地調査>

1 一緒に出かける

ホストシスターやROBSのお友達と一緒に外出。

出かける場所はショッピングセンターや映画館など、日本の学生が遊びに行く場所と変わりがなかった。日本もアメリカも同じような場所へ行き遊んでいる事がわかり、同世代なんだなと再実感した。

アメリカで食べたスイーツ



アイスクリーム: 6\$
(日本円換算 642円)

イチゴチョコ: 1個 5\$
(日本円換算 535円)

日本で食べたスイーツ



季節のおすすめ: 600円

死オカドリンク: 600円

2 友達と遊ぶ時の費用の内訳を調べてみた

日本	アメリカ
公共交通機関を使って遊びに行く (交通費が発生する)	公共交通機関が少ない為親が車で送迎 (交通費なし)
お揃いの小物や雑貨等を購入 プリクラを撮影する (スマホケース300円 プリクラ400円)	化粧品やアクセサリー 雑貨などを購入 (雑貨10\$ アクセサリー20\$ コスメ30\$)
朝から出かけ夕方に帰宅 (ランチ代あり)	午後から遊びに出かける事が多い (ランチ代なし)
スタバやアイス屋でスイーツを購入 (スイーツ代 あり)	スタバやアイス屋でスイーツを購入 (スイーツ代 あり)

アメリカは土地が広く、都市部だと公共機関が発達しているが、都市部から離れた住宅街だと公共機関が少なく、車での移動が主の為、保護者の送迎が多い。出かける時間帯も、家族と過ごす時間を大切にする為、午後から出かける事が多かった。ファッション感覚の違いからか、アメリカの学生はアクセサリーやコスメなど高額な商品を見てい

る事が多い。反対に日本の学生は、バスや電車を利用して遊びに行き、一日かけ友達と遊ぶ事が多い。お昼代がかかり、マクドナルドや低価格の飲食店でお昼を食べている。見て回るお店も300円ショップ等の安い雑貨屋が多い。

日本 → 移動に伴う交通費と飲食代に費やす金額が多い。購入品は低価格
アメリカ → 購入品に費やす割合が高く、遊ぶ時間も短い為、ランチ代がない

一緒に出掛けて気になった事

ホストマザーやホストシスターは現金での支払いを行わず、キャッシュレス決済をしていた。現地の学生は現金で買い物している人もいるが、ROBSの大半の友達は親からカードを預かり、キャッシュレスにて普段の買い物をしていた。

<キャッシュレス事情>

現金を持たなくてもよい、面倒なお釣りのやり取りもなく支払いがスムーズにできる、購入した物の記録が残るなど、利用者の利便性がある。また、偽札対策、盗難等の犯罪にあってもカード類を使えなくする事で被害は軽減できるなど、安全性が高い。その為、アメリカはキャッシュレス決済ができるお店が多く、キャッシュレス化が進んでいた。

<まとめ>

同年代のお小遣いを貰っている割合や金額にあまり変わりはない。しかし、文化の違いにより使い方には違いがあった。今回の調査結果から分かった事は、日本の子供達はお小遣いを現金で貰うが、アメリカのお小遣いの貰い方は現金の割合が少なく、親から決められた金額まで使えるカードを預かり使用していた。その為、「お小遣いを貰う・使う」の感覚が日本の学生と違い、日本の学生は「手持ちの現金」だけで友達と遊びに行くのに対し、アメリカの学生は「キャッシュレス化」の為、使える金額が多いと考えられた。来年は東京オリンピックが開催され、外国から観光客が増える事により、日本もキャッシュレス化がどんどん進んでいくと思う。日本の子供達のお小遣いの貰い方や使い方も変わってくるのかもしれない。

最後にこのレポートの内容は、アンケート結果や、私が見聞きした事、インターネットで調べた事をもとに作成しました。日本とアメリカ全ての学生に、お小遣いの貰い方、使い方が当てはまるわけではありません。

日本とアメリカの学校生活の1日

原田 奈和

〈研究テーマ選定理由〉

私は以前から、外国のドラマや映画を見てきてたくさん驚いてきた。その中でも特に印象に残っているのは学校内でのシーンだ。清掃員の人たちが校内をまわって教室を掃除したり、お昼になると、生徒たちはスクールカフェテリアと呼ばれる場所で、仲の良い友人同士で好きな場所に座って昼食をとったりする。これらのように、日本ではあまり見る事の出来ないことを、学生という立場からもっと違いを調べたいと思ったから。また、アメリカの生徒についても興味を持っていたから。

〈研究内容〉日本とアメリカにおけるの学校生活に関する違い

アンケートをとり、特に違いがでたもの。また、それらに対するの考察や疑問に思ったこと。

〈研究方法〉アンケートと滞在中での観察など

☆千葉市立幸町第二中学校 生徒 32 人

★River Oaks Baptist School (ROBS) 生徒 19 人

〈研究結果〉

---朝の学活---

☆日本：自席に座り、1人または2人の日直が朝の学活を仕切る。学活では、出席確認、今日の予定の確認、制服を正しく着れているか、名札を付けているかの衛生チェックなどを行う。

★アメリカ：席は決まらず、自由。学活は担任の先生が仕切る。一人ひとり名前が印刷されたシールをもらい、それを左胸に張る。(毎日配られる)
同じクラスでも、生徒全員授業の予定が違うので、その人だけの予定も配られる。

---授業の様子---

☆日本：その教科の先生が教室に来る。生徒は教科書、ノート、ワークを準備しておく。手を挙げて、先生に指名されてから発言をする。

★アメリカ：自分たちでその教科の教室へ行く。教科書やノートは一切使用せず、1人1台持っているパソコンを使用。ワークシートは、全て学校のサイトからアクセスできるページにアップされており、それをダウンロードして使用するようになっている。手を挙げてから発言するという習慣があまりなく、思ったことをすぐ発言する。グループになって話し合う授業が多い。



日 本



ア メ リ カ

---昼 食---

☆日 本：教室でクラスのみならず給食を食べる。給食当番が全員分配膳する。

★アメリカ：スクールカフェテリアで近くにいた友達と食べる。(各テーブル7~8人まで) 飲み物、パン、サラダ、デザートなど場所ごとに分かれており、ビュッフェスタイルになっている。飲み物はアップルジュースやオレンジジュース、お菓子ではポテトチップスなど、あらゆるものが常備されている。生徒達が食べるテーブルには、全てに塩、胡椒、紙ナプキンが置いてある。

---掃 除---

☆日 本：生徒たちが自ら教室に置いてあるほうきやちりとり、雑巾などを使って毎日掃除をする。

★アメリカ：赤いTシャツを着た清掃員たちが掃除道具を運びながら校内を巡回している。生徒たちが掃除をするのは年度末などの数回程度。

・私は掃除の違いについて、さらに気になったので、お互いの国の掃除習慣をどう思っているか、掃除に対する意欲などをアンケートで調べた。

Q. アメリカの学校では、生徒たちで掃除をする習慣がないのですが、それに対してどう思いますか？(日本の中学生対象)

- 羨ましい ●国それぞれなので良いと思う
- 清掃員を雇うことでお金がかかりそう ●習慣化すべき、大切さを学ぶべき

Q. 日本の学校では、生徒たちが学校を掃除するのですが、それに対してどう思いますか？(アメリカの中学生対象)

- 素晴らしい ●国それぞれなので良いと思う
- 掃除ではなく勉強をするべき ●汚したのなら、するべきなど、違った意見がたくさんあった。

日本の中学生で「いいえ」と答えた生徒は、〈無職の人が減るから〉や〈掃除の時間を勉強にまわせるから〉などといった意見があった。



日本の掃除用具



清掃員が使う掃除用具

---部 活---

☆日 本：運動部では野球・サッカー・卓球・バスケットボール・バドミントン・バレーボール・ソフトボールなど。

文化部では吹奏楽部・美術部・科学部など。

★アメリカ：運動部は、日本の中学校では珍しいホッケー・フットボール・ラクロス（棒を使って行う競技）などがある。

文化部はない。

---登下校---

☆日 本：大体の人が徒歩で通っている。登下校にかかる時間は5分～30分程度。

★アメリカ：大体の人が親の車の送迎。または自転車。下校の際は校舎の下で親の車を待つ。親は、自分の子供の学年・名字が印刷された紙を車の中に外から見えるように置いておく。それを先生たちが読み、メガホンで生徒たちに伝えて、呼ばれた生徒たちは帰るとい仕組みになっている。



車の送迎の様子

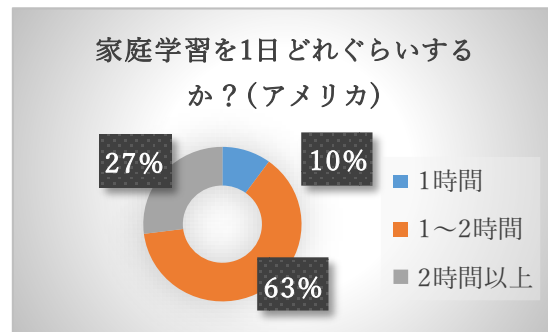
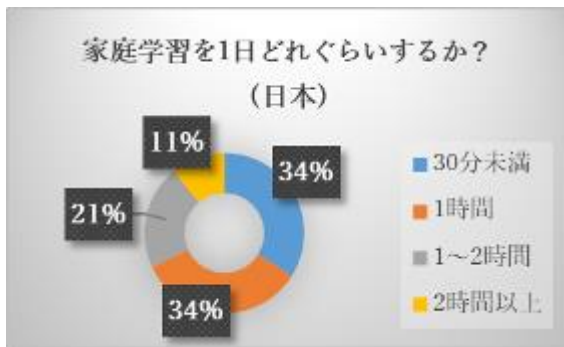


親を待つ生徒の様子

〈その他で関心を持ったもの〉

日本とアメリカで、勉強に対する意欲の違いをアンケートで調べてみた

Q. 家庭学習を1日どれぐらいするか？



- ・アメリカでは日本に比べて勉強に対する姿勢があり、全員必ず1時間は勉強している。30分未満の生徒は0人であった。

〈考 察〉

これらのように、日本とアメリカでは環境が異なるからか、多くの違いや意見が出ることがわかった。この【ROBS】では一学年82人で毎授業約15人～25人という少人数で行っている。そのため、生徒たちは発言しやすく、先生とのコミュニケーションもたくさんとれ、より深く学ぶことができていると思う。また、定期的に study home という自習の時間を確保しており、生徒たちは約1時間勉強や宿題をやる。私は、アメリカは勉強に対する意識が本当に高いと思った。

〈感 想〉

これら以外にも書ききれないぐらいのたくさんの違いがアメリカの学校生活にあった。特に、校舎内に貼ってある掲示物だ。『Live like you' re loved』と書かれた掲示物がどこにでもあるのだ。これは、「愛されているような生活」という意味である。また、ROBSが信仰しているキリスト教の一部であるバプテスト派のモットー「個人の良心の自由を大事にする」ということも、学校のチャペルの授業で重要視されていることにとても驚いた。日本では、アメリカで見つけた良い点を普段の学校生活に取り入れていきたいと思った。

日本とアメリカの学校の違い

堀辺 蒼空

〈テーマ選定理由〉

生徒会に所属しているためアメリカの学校やその体制に興味を持ちこの機会に調べてみようとのテーマを選定した。

〈内容〉

以下の3つの事柄について調査を行った。

- 1, 教育制度
- 2, 生徒会の体制と仕事
- 3, 一週間の時間割と授業風景

1, 教育制度

アメリカの教育制度とは12年生までの義務教育で、私が訪れた学校は5・3・4年制であった。(下図1)

図1

1～5th	elementary school	義務教育
6～8th	middle school	
9～12th	high school	
13～15th	college	
16～18th	another college	
19～21th	atc.	

また、大学へ行くことは義務ではないがほとんどの人が通っている。大学では一つの大学には最長3年でそれ以上大学で学びたい場合、他の大学に行かなければならない。しかし、どこの大学でも同じ大学には3年間しか留まることができない。大学を転々としながら12年間過ごしたという人や、6年間で終えた人などその長さは様々である。



2, 生徒会の体制と活動内容

生徒会の体制

生徒会は **Elected Officers** と **Homeroom Representatives** という 2つの組織から成っている。Elected Officers とは日本でいう生徒会のことで 8年生の会長 (President)、副会長 (Vice President)、7年生または 8年生の会計 (Treasurer)、書記 (Recording Secretary)、通信委員 (Corresponding Secretary)、年代記編者 (Historian) の計 6名から成る。

Homeroom Representatives とは 7, 8年生の各学年 4名ずつの学級長、計 8名から成る組織である。(図 2)

図 2

Student Council	
Elected Officeres	Homeroom Reprasetatives
President (8 th)	8 th × 4 名
Vice President (8 th)	7 th × 4 名
Treasurer (7 / 8 th)	
Recording Secretary (7 / 8 th)	
Corresponding Secretary (7 / 8 th)	
Historian (7 / 8 th)	

生徒会の活動内容

生徒会の活動は主に以下の 2つである。

- 1, 週に 2回の会議 (火曜、木曜)
- 2, 行事の企画・運営・記録

週 2回の会議では各学級・学年・学校の様子、学校に必要な物品、生徒の服装についての話し合いが行われる。行事の企画・運営では具体的に Movie Night や Dance Party などのサプライズイベントが年に 4～5 回ほど行われる。ただし、これらは全て校長先生の認可が必要であり、通信委員 (Corresponding Secretary) が校長先生と対話を行う。

3, 一週間の時間割と授業風景

授業

授業では各教科で椅子・机の配置が異なり、基本的に誰がどこに座るというのも決まっていな。また、昼食は食堂で食べるため学年ごとに昼食をとる時間が異なる。そのため遅い時間帯になっている学年（8年生）では4時間目のみ、授業中の食事が認められている。

時間割

一週間の時間割は図4の通りだ。これはホームステイ先のバディの時間割である。生徒間の交流の機会を増やすべく時間割はクラス単位ではなく個々でばらばらに学校側が決められている。また、週始めである月曜日は生徒への負担を考え、授業時間が短くなっている。

図4

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日
8:00-8:20 Homeroom	8:00-8:57 Spanish	8:00-9:25 Math	8:00-9:30 Art
8:24-9:12 Spanish	9:01-9:52 Art	----- Chapel	9:35-11:00 Spanish
9:16-10:00 Art	9:54-10:47 Math	10:05-10:47 Tutorial	11:00-11:20 Break
10:07-10:54 Math	10:51-11:41 History	10:52-12:20 History	11:20-12:45 English
10:58-11:45 History	11:45-12:35 English	12:25-12:55 Lunch	12:45-13:18 Lunch
11:49-12:36 English	12:41-13:08 Lunch	----- Activity	13:18-13:50 Activity
12:41-13:11 Lunch	13:10-13:41 Activity	----- Homeroom	13:55-15:30 Science
13:15-13:41 Homeroom	13:45-14:35 Science	14:10-15:30 PE	
13:45-14:33 Science	14:40-15:30 PE		
14:40-15:30 PE			

※金曜日の時間割は火曜日と全く同じであるため省略

授業風景

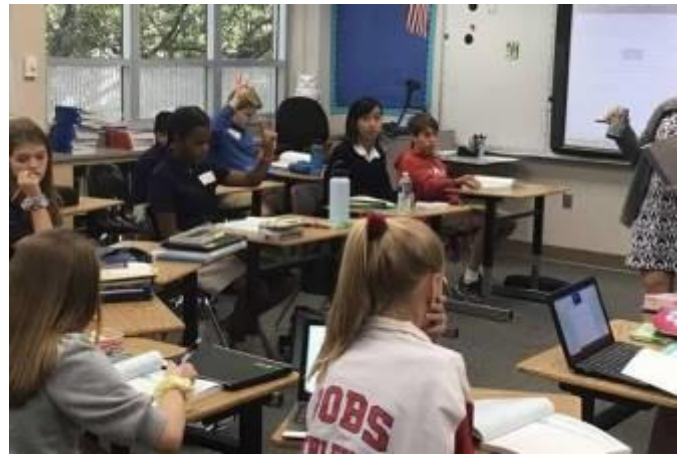
授業ごとに教室を移動する必要があるが移動時間は4分間ほどと短く、毎回授業に遅刻する生徒が平均して1人～2人ほどいる。しかし、先生も移動時間が短いことがわかっているためか特に注意することは無い。また、授業中は居眠りをする生徒が全くいない。

質問や意見がある場合はすぐさま挙手するなど積極的に授業に参加している。

歴史の授業風景



英語の授業風景



感想・結論

アメリカの学校では他人とのつながり・ふれあいを大切にしていると感じた。授業ごとに授業を受ける仲間が変わったり、授業もグループ作業が多く、また Activity など授業自体がクラスや他人との交流を深める目的のものが多かった。今回の帰国報告書では触れなかったが、部活動でも季節ごとに種類が変化し、その所属が義務付けられていることなど、より多くの人との接触を図ろうとしているように感じる場面が多々あった。

これらは日本と違い、様々な人種・文化形成を持つアメリカで、差別や偏見を持たないようにするためであろう。そのために授業の内容や形といったものが日本とは異なっているのだと考えられる。

4. 滞在感想文

Precious Days

萱原 千尋

私にとって初めての海外渡航経験がアメリカ合衆国、ヒューストン市への姉妹都市交流事業の派遣生としてであったことは、本当に幸運で、素晴らしいことでした。この経験を忘れず、活かし、前進していける自分でありたいと思っています。

ヒューストンでのスケジュールは多岐に渡り、約2週間の間に様々な体験や交流をさせていただきました。とても充実した、何にも代え難い毎日でした。

1週間目は、主にヒューストンの様々な場所を訪問しました。見るもの、聞くものすべてのものが眩しく、新鮮で、大きい！世界は広く、国や地域によって色々な人々が生活し、様々な文化があるのだと感じました。特にヒューストンフードバンクでのボランティア活動は強く印象に残りました。フードバンク専用のトラックが何台もあり、建物はまるで工場のようなようでした。また、会社員の方々が団体でボランティアに来ているようで、日常にボランティアが根付いていることや人々の意識の高さを感じました。ボランティアというテーマで考察をする私にとって貴重な活動となりました。

2週間目は、ROBSでの学校見学でした。学校生活でも様々な違いがありました。授業数が多く、休み時間がほとんどありません。日本と最も大きく違うと感じたのは、生徒の学習意欲の高さです。日本よりはるかに積極的で、男女関係なく、自由に発言しています。宿題を忘れていた生徒はほとんどおらず、意欲的に勉強しているという印象でした。私も、ホストシスターと一緒に授業を受けました。本当はもっと授業に積極的に参加したかったのですが、自分の英語力では辞書を活用しながら、やっと少し理解できる程度でした。悔しく、残念でした。でも、学校生活は楽しく、充実したものでした。ROBSの先生方は、とても親切で、私達にROBSの生徒と同じように接してくださいました。

また、ホストファミリーとの休日では、HOUSTON ZOO や、プール、ショッピングモールなど様々な場所に連れて行っていただきました。私の拙い英語に熱心に耳を傾け、お互いを理解しよう、そして伝えよう、解り合おうとするホストファミリーの優しさ、熱意を感じ、私の緊張はほぐれ、アメリカ生活をエンジョイし、色々なことを学びたい、たくさんの方々と交流したいという力につながっていったように思います。

私はアメリカ滞在中で自分の意見を伝えること、同時に自分以外の人の意見にも耳を傾けることの大切さを改めて感じました。また、積極的に意見交換しあう方が話し合いはより発展するのではないかと考えました。

最後に私の充実したアメリカ滞在を支えて下さった、千葉市国際交流協会の方々、JASHの方々、ホストファミリー、宮脇先生、ROBSの方々などすべての方々に感謝します。本当にありがとうございました。

Precious Days

Chihiro Kayahara

It was fortunate and wonderful that my first overseas travel experience was to be sent as an exchange student for sister city exchange program to Houston, USA.

I want to be a person who can make good use of this experience and make progress.

The schedule in Houston was full. We had various experiences and exchanges within about two weeks. It was much fulfilled and an irreplaceable experience.

In the first week, I visited various places mainly in Houston. Everything I saw and heard was dazzling. Many products and things were big and new. I felt that the world was wide and a lot of people live in different countries and regions, and that there were many cultures. Volunteer activities at the Houston Food Bank were most impressive. There were many trucks belong to food banks, and the building looked like a factory. Also, it seems that the employees of the company came as volunteers and I felt that the volunteers are taking root everyday life and they are aware of the importance of volunteering. It was a precious activity for me to study on the theme of volunteering.

The second week was a school tour at ROBS. There were a lot of differences in school life. There are many classes and there is almost no rest time. What I felt the most is being different from Japan and America was the students' attitude to learn. ROBS students are much more active than Japanese and talking with freely regardless of gender. Few students have forgotten their homework. I thought that they are studying eagerly. I followed my host sister. I wanted to participate more actively in the class, but I understood the class by using my dictionary. It was disappointing and regrettable. However, school life was fun and fulfilling. The ROBS teachers were very kind and treated us like ROBS students.

On holidays with my host family, I was taken to a variety of places such as HOUSTON ZOO, swimming pools, and shopping malls. Everyone listened eagerly to my poor English, tried to understand and we communicated each other. I felt the kindness and enthusiasm of my host family, my tension was relaxed, I enjoyed my life in America, and did various things. I think all of them led to the power to learn and interacted with many people.

I felt the importance of telling my opinions and listening to other people's opinions during my stay in the United States. I thought aggressive communication made discussion developed.

Finally, I would like to thank all the people from the Chiba City International Association, JASH, host family, Mrs.Miyawaki, and ROBS who supported my fulfilling stay in the United States. I'm thankful to them.

貴重な経験

戸崎 奏

私はヒューストンに行ったこの二週間で貴重な経験をたくさんさせていただきました。

まず一つ目はヒューストンに住んでいる人の日常生活を体験するという事です。夏休みから始まり、現地の学校に通う。普通に旅行で行ったらそんな事なかなかできないと思います。

学校ではたくさんの興味深いことを見つけましたが、私は”Prime Time”という日本で言う学童の様なものについてお話したいと思います。

私のホストマザーは働いていてお迎えの時間が遅かったため(だいたい18時頃)、ホストシスターはPrime Timeに通っていました。

Prime Timeは主にPrime Time専用の大きな部屋で行います。その部屋にはたくさんの遊ぶ道具があり、勉強だけでなく楽しく遊ぶとができ退屈しないような空間になっていました。卓球台、ビリヤード台もありPrime Timeの先生も一緒にプレイしていました。また、私達(ホストシスターとその友達)は図書館や中庭、カフェテリアでよく勉強をしていました。Prime Timeで出会った他の学年の子や友達と過ごした時間はROBSで過ごした時間の中でも宝物です。

また、休日や放課後にもたくさんのことを経験しました。近所にある会員制のプールに行ったり(近所の子供達とも仲良くなれました)、夜にはよくスターバックスやアイスクリーム屋さんに立ち寄ったりしました。

あまり家の中で食事をしない家だったので、夕食は外食が多かったです。なので最終的に帰宅する時間は21~22時と結構遅かったです。そこからシャワーや次の日の準備を始めるので寝る時間もかなり遅く、少し寝不足の日が続いたりしましたが、気が張っていたからか疲れが出るということもなく日々を過ごしていました。その分、帰国してから疲れがとれにくかったので、早寝早起きを心がけて生活することはとても大事だと感じました。

そして、日常生活だけでなく、ホストファミリーが私のために計画を立ててくれたこともたくさんありました。

ショッピングやスーパーに行ったり、ホストファミリーの親戚のウェディングドレス選びに同行したりしました。

その中でも私にとっていちばんのビッグニュースだったのが、教会でスピーチをするということでした。私のホストファミリーは毎週日曜日の午前中、みんなで教会に行きます。そこはとても大きなチャーチで、たくさんの人がいました。

スピーチの内容は自己紹介となぜ私がヒューストンに滞在しているかなどでした。その日は到着してから3日目でした。前日の夜にホストマザーにいきなり言われ、とても驚いたのを覚えています。ホストマザーが文面を考えてくれ、ホストシスターも同じ場でしゃべることになりました。

当日はとても緊張していて、初めてのチャーチだったのにほとんど耳に入ってきませんでした。しかしスピーチが終わると、立ち上がって拍手をしてくれる人、話しかけて来てくれる人、暖かくハグをしてくれる人がいました。

ヒューストンの人達は本当に暖かく歓迎してくれました。着いて比較的すぐの出来事だったので、少しびっくりしましたが、このおかげでヒューストンのことがもっと好きになることができましたし、早く馴染むことができたのかなと思います。

そしてヒューストンでの二週間、たくさんの方々に支えていただきました。本当にありがとうございました！

Precious time I had in Houston

Kanade Tozaki

During my stay in Houston, I had a lot of wonderful experiences.

The first thing that impressed me was the school life in Houston. I couldn't have experienced it if I had had an ordinary family trip. There were a lot of interesting things there, but I would like to write about the Prime Time program, which is similar to "Gakudou" in Japan. Both of my host parents worked until 6 p.m. so my host sister went to Prime Time program. The Prime Time program has its own room. The room has a variety of things to play with, such as table tennis and billiard equipment. Students can enjoy playing with friends and teachers as well as studying. My friends and I often studied at the library, courtyard, and cafeteria. The time I spent with friends in the Prime Time program is my treasure.

Also, I enjoyed afterschool activities and holidays. My host family took me to a nearby swimming pool and I became friends with local children. My host family was going to attend a wedding ceremony of their relatives and we went to choose a bridal dress. I often went to Starbucks and an ice cream shop in the evening. My host family often ate out, so we came back home at 9 to 10 p.m. Although I went to bed later than I do in Japan, I enjoyed all the activities I had there in Houston. But, after I came back in Japan, I realized that I was very tired. I learned that I should keep early hours.

My host family planned some holiday activities for me. The biggest thing I did was the speech in a church. My host family goes to church on Sunday morning. It is a large and church and there are many people on Sundays. The speech was about my self-introduction and why I was studying in Houston. My host mother helped me write the script and my host sister also spoke next to me. I was so nervous that I did not even hear a sound. However, when I finished my speech, many people gave me hands and some hugged me warmly. People in Houston welcomed me really warmly. I was amazed at their hearty welcome and this made me get used to life in Houston and made me love Houston all the more.

I had wonderful time with my host family. I spent a lot of time with my host sister, brother and mother so I could easily get close to them. My host father was very busy and I had few opportunities to hang out with him. But when he saw me, he gave me a high five. He also made me breakfast. When I was leaving Houston, my host family gave me a photo album with decorated fancy pictures and messages. I was so happy.

I love the people I met in Houston. Thank you.

世界へ踏み出す一歩

永野 友莉

見て、聞いて、話して、学んだヒューストンでの二週間。ヒューストンでの二週間は私の世界観を大きく広げ、かけがえのないものとなった。

ホストファミリーとの対面の日、私は二週間生活していけるのか、私の英語は、相手に伝わるのかと不安と緊張に包まれていた。自己紹介を終え、ホストファミリーのもとに行く「Welcome! Welcome!」と笑顔で声をかけてくれた。その一言を聞いて緊張から解放され、不安が期待へと変わった。そして、温かいホストファミリーに迎えられ私の二週間が始まった。最初の一週間は言葉の壁を実感し、生活の違いに違和感を持つことがあった。しかし、私のホストファミリーはどんな時でも優しく私を助けてくれて、本当の家族のように接してくれた。難しいと思っていたコミュニケーションも、心と心を通わせることで劇的に変わっていた。

NASA見学や大リーグ観戦は、とても迫力があり、どれも感動するものばかりだった。フードバンク体験では、食事に困っている人への様々な支援活動が行われている事を知った。食品の分別作業で困っていると、親切なアメリカ人ボランティアに助けもらった。ヒューストンで学び、現地の生活、食文化に慣れてくると、私の生活は少しずつアメリカに染まりはじめていた。

ROBSでの学校生活は魅力的なものだった。教科ごとにクラスを移動し、一人一台のパソコンを使っての授業。自分の意見を持ち熱心に勉強する姿は、日本の学生との違いを実感した。クラスの人数も20人程度と少なく学びやすい環境だった。美術の授業ではグループに分かれて、様々な物を作っていた。あるグループは、クラス全員の似顔絵を描いていた。そこには私の似顔絵もありクラスの一員として受け入れられたようで、とても嬉しかった。ホストシスターにも恵まれ、学校のカフェでランチをしながら日本のことを紹介したり、休日は一緒にショッピングセンターに出かけたりした。友達は何も優しくユーモア溢れており、人それぞれ違った個性を持っていた。そんな友達と過ごす学校生活は今までで一番楽しかった。時々言葉が通じない時もあった。そんな時は互いを理解し解決していく。これが本当の異文化交流だと感じた。学校最終日は手紙を貰ったり、連絡先を交換した。そして、「I love you」とハグをして笑顔で別れた。

ホストファミリーとの別れはとても悲しかった。もっと一緒にいたい、帰りたくないそんな思いが涙とともにこみ上げるなかホストシスターは私を抱きしめ温かいぬくもりで包んでくれた。私たちは再会を誓って、もう一度大きなハグを交わした。私はとても素敵なホストファミリーに出会うことができた。この出会いに感謝してこれからも交流を続けていきたい。

世界への憧れを抱いていた私にとって、ヒューストンでの二週間は世界に踏み出す一歩となった。そして、異文化交流の難しさや楽しさを改めて感じるものになった。来年は東京オリンピックが開催され沢山の外国人が日本を訪れる。私は、ヒューストンで学んだ経験を生かして、日本のおもてなしの心で、世界中の人々と交流を深めていきたいと思う。

最後にこの派遣事業成功に努めてくださった千葉市国際交流協会の皆様、ヒューストン日米協会の皆様に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

A step into the world

Yuri Nagano

I saw, listened, talked and learned about many things in Houston for two weeks. The two weeks in Houston have greatly expanded my view of the world.

On the day I met my host family, I was filled with anxiety and tension as to whether I could do it well for two weeks or communicate with the other people. When I finished my introduction and went to my host family, she said “Welcome! Welcome!” with a smile. When I heard the word, I was relieved tension and my anxiety of my expectations. And my two weeks started with a warm host family. During the first week, I realized the language barrier and sometimes had a sense of incongruity in my life. But my host family helped me at any time and treated me like a real family. At first I thought communication was difficult. However, through communicating my thoughts to another, my communication skill changed dramatically.

Visiting NASA and watching major leagues were very powerful and impressive. During the food bank experience, I learned that a variety of support activities are being carried out for people who are having trouble eating. When I was in trouble with food sorting, I was helped by a kind American volunteer. After learning Houston and getting used to the local life and food culture, my life gradually began to be ingrained in the United States.

School life at ROBS was fascinating. Students moved their classrooms for each subject and each person uses a personal computer. The experience of studying hard with my own opinions I realized the difference from Japanese students. There were only 20 students in the class and it was easy to learn. In the art class, we were divided into groups and made various things. One group painted caricatures of all the classes. There was my caricature and I was very happy to be accepted as a member of the class. I was blessed with my host sister’s friends and introduced me to Japan while having lunch at a school café and went to a shopping center together on holidays. All of my friends were kind and full of humor, and each person had a different personality. I had the most enjoyable school life with my friends. Sometimes I couldn’t understand the language. At such times, we understood each other and resolved them. I felt this was a real cross-cultural exchange. On the last day of school, I received a letter and exchanged contact information. Then she hugged “I love you” and parted with a smile.

Saying good-bye to my host family was very sad. The host sister hugged me and wrapped me in kindly warmth as I wanted to stay with her and not to go home. We swore a reunion and made a big hug again. I was able to meet a very nice family. I would like to continue this exchange thanks to this encounter.

I was longing for the world, so the two weeks in Houston were a step into to the world. And I felt the difficulty and fun of cross cultural exchange.

Next year, the Tokyo Olympics will be held and many foreigners will visit Japan. I would like to use the experience I learned in Houston to deepen interactions with people around the world through Japanese hospitality.

Finally, I would like to thank the people of the Chiba City International association and the Japan- America Society of Houston for their success in this dispatching business. I’m really thankful to you.

“ハグ”で溢れた滞在

原田 奈和

留学が決まる前から、もし自分が行けたらどんなに楽しいことだろうとずっと考えていた。そして、夢がかなった2週間。それは日本とは全く違った生活習慣、環境、たくさんのハグで溢れた日々となった。

12時間のフライトを終え、ついにホストファミリーと初めて顔を合わせた。ホストシスターとお互いに自己紹介をして隣に座ろうとしたところ、私はとても驚いた。なぜなら、ホストシスターが歓迎の挨拶に力強いハグをしてきたからだ。日本ではあまりハグをする習慣は無く、親しい仲でしかしない。しかし、アメリカでは日本でいう挨拶のように初対面の人でも、当たり前のようにハグをする。このようなアメリカ人の人柄の良さ、優しさなど全て、私がアメリカ滞在中、特に衝撃を受けたことだ。

私たちは、日本のソーラン節をROBSで披露した。文化の違いから、「アメリカの人達に気に入ってもらえるかな？」という不安の気持ちがありながらも、精一杯踊った。踊り終えて顔を上げると、そこには拍手と笑顔で包まれたたくさんの生徒がいた。そして、一番嬉しかったことは、仲良くなった友人たちが私をめぐって抱きついてきてくれたことだ。私はこの時、日本人もこのように、「たくさんハグをするべきだ！」と、強く思った。また、ハグにはたくさんの意味があるのだと、考えさせられた瞬間だった。

ヒューストンでの最終日。そして、別れの時。ホストシスターに「Thank you for everything!! Let's keep in touch.」という言葉 最後に、初めて会ったときのように力強いハグをした。ホストシスターを乗せた車が行ってしまったのを見ると、あらゆる感情とたくさんの涙が溢れてきた。すると、他の子のホストファミリーの子たちが、私を慰めるように優しくハグをしてきてくれた。それは本当に嬉しく、心がたくさんの愛で満たされていくのを感じることができた。

私は、この留学期間が「もっと長ければいいのに！」と思った。最初は言葉が通じない中、これからやっていけるか不安でいっぱいだった。しかし、本当の家族のようにずっと一緒にいて、ホストシスターとの仲はどんどん深まっていった。そして、私がある程度英語を話せるようになったり、お互いに共通の話題で顔を見合わせて笑えるようになったりしたのは、アメリカを出国する3日前のことだった。直接会うことは難しくても、この貴重な出会いや縁に感謝し、これからもずっと連絡を取り続けていきたい。

今回のことをきっかけに外国との交流、活動範囲をさらに広げていきたいと、改めて強く思った。千葉市国際交流の皆様やJASHの方々をはじめ、ホストファミリー、さらにアメリカで新しくできた友達など、このプロジェクトに携わってくださった全ての人たちには感謝しきれないほどです。そして最後に、留学に行かせてくれた家族にもたくさんお礼を言いたいです。本当にありがとうございました。

Full of “hugs” during my stay

Nana Harada

Even before I decided to study abroad, I was always thinking how fun it would be if I could go there. These two weeks made my dream come true. It was a completely different lifestyle, environment and full of hugs during my stay.

Environments and many hugs that were completely different from Japan. After a 12-hour flight, I finally met my host family for the first time. I was very surprised when I introduced myself to the host sister and tried to sit next to them. This is because the host sister has a strong hug in the welcome greeting. In Japan there is not much custom of hugging, but only close friends. However, in the United States, even people who meet for the first time like a greeting in Japan, they hug naturally. All of the good personality and kindness of the Americans were particularly shocking in a good way during my stay in the United States.

We performed a Japanese “Soran bushi” at ROBS. When I finished dancing and raised my face, there were many students wrapped in applause and smiles. And what I was most happy about was that the friends I got along with hugged me. At this time, Japanese should hug a lot like American people! I strongly thought so. It was a moment that made me think that hugging has a lot of meaning. Then the other student’s host family then gently hugged me to comfort me. I was really happy and felt that my heart was filled with a lot of love.

Last day in Houston. And at the time of parting. After the words “Thank you for everything!! Let’s keep in touch.” And we had a strong hug. When I saw the car with the host sister on it many emotions and many tears overflowed.

I thought that “This study abroad period should be longer!” At first I was full of anxiety about whether I could do it while I couldn’t understand the language. However, I stayed together like a real family, and my relationship with my host sister deepened. It was only 3days before left the United States that became able to speak English to some extent, and to be able to laugh face-to-face on a common topic. Even if is difficult to meet directly, I would like to thank for this precious meeting and relationship and continue to keep in touch.

I strongly felt again that I wanted to expand exchanges and activities with foreign countries. I would like to say thank all the people who have been involved in this project, Chiba City International Association, JASH members, host families and including new friends in the United States, Finally, I would like to thank my family for sending me to study abroad. I’m really thankful to you.

ヒューストンの人々とふれて

堀辺 蒼空

私は今回の交流事業を通じ、ヒューストンの人々の考えや優しさというものを肌で感じられ大変良かったと思います。

現地に着いてから3日程は現地の人達が何を言っているのかさっぱりわかりませんでした。徐々に慣れていったのと周りの人の様々な配慮があり、4日目からは質問に答えたり自分の意見が言えるようになりました。しかし、現地の学校での生徒達の会話には驚かされました。学校では8人が同じテーブルを囲っている中で4人以上が同時にかつ、それぞれ異なる話題について話していたのです！その上、会話の相手も1分もしないうちに変わってしまうので会話の内容が全く理解できませんでした。

自分の意見を主張するという点では、空気を読んだりする日本人に比べ、素晴らしいなと思いました。自分の言いたいことを言いたい時に言うことで彼らの仲はより深まっているようにも感じました。また、普段の生活の中では彼らの優しさを垣間見ることができました。他の人のためにドアを開けたり、席をひいたりすることは当たり前のようにしていましたし、私が校舎内で迷子になっているときも「大丈夫？」などと多くの人が1度も会話したこともない私に優しく声をかけてくれました。

私は今回の交流事業でホームステイや現地の学校に通うなど多くの貴重な体験を通じ、ヒューストンの人々の素晴らしさを感じると同時に自分の未熟な点にも多く気付かされました。今回の交流事業で知った多くのことや自分の未熟な点を改善し、今後国際人として恥ずかしくない言動がとれるよう努めていきたいと思いました。

最後にはなりましたが千葉市国際交流協会並びに、ホストファミリー、ROBSの方々、引率者、派遣生の皆様、私にこの素晴らしい2週間を与えてくださり本当にありがとうございました。

Houston People

Sora Horibe

I think it was great to feel the thoughts and kindness of people in Houston.

First three days, I couldn't understand what they are talking about. But many people helped me. So, I could answer their some questions and said my opinions.

I was surprised when I was talking with school students. Eight students surrounded a table and four students talked about different things at the same time. In addition, students moved to another table to speak within thirty or forty seconds. I was too confused to understand the situation.

However, I think that is a good way to insist their thought and opinion. It is better way than Japanese communication. They got much closer before talking.

I could see their kindness too. They opened the door or pulled a chair for other people. And when I got lost, so many students said to me "Are you OK? Do you need our help?" This program taught me about Houston's good points and my immaturity. I have to make an effort to be a good person.

Special thanks to Chiba City International Association, my host family, ROBS's students and teachers, my teacher and friends. Thank you for giving me great two weeks!

百聞は一見に如かず

千葉市立幸町第二中学校 教諭 宮脇 美郷(引率者)

ヒューストンでの2週間を通して、自分の意識や考え、行動等たくさんの方が変化しました。「百聞は一見に如かず」とよく聞きますが、私はこの言葉を身をもって体験しました。

今回の派遣では、ホストファミリーと過ごす時間や学校で過ごす時間が多く、アメリカの中学生が普段どのように生活しているのかを身近で知ることができました。同時にアメリカのよさ、そして日本のよさを感じました。私が2週間の中でよいな、あるいは日本でも真似していききたい、と感じたことがいくつかあります。

一つ目は家族の関係のよさです。アメリカの人々は自分達の気持ちを素直に表現します。それは両親から子供達に対してもありますが、逆の場合も多々あります。晩御飯の食卓を全員で囲み、お祈りを捧げたあと、全員がその日に一番よかったこととその理由を話し、お互いを褒め合っている姿がとても印象に残っています。普段から互いに興味をもち、讚え合える関係がすばらしいと感じました。

二つ目は学校の授業です。登校初日、校舎に入ると英語の教科書に載っているような教室や廊下に各生徒個人のロッカーがあり、休み時間には廊下にたくさんの生徒が行き来していました。給食はカフェテリアで摂り、おやつを食べながら授業を受けることができます。日本とは全然違う環境にはじめはとまどいながらも、とても興味深く日々を過ごすことができました。

また、授業は生徒に考えさせる時間が多く、先生方はよく「なぜ、そう思うのか。」と生徒に尋ねていました。私も生徒に考えさせ、自分のことを伝える力を養うことができる授業を目指していききたいと感じました。

三つ目は人々の温かさや周りを尊重する文化です。2週間で関わった方々は皆とても親切で、日本のことにも興味をもっていらっしゃいました。学校にも様々な生徒がおり、生徒達の祖先について尋ねると、それぞれが各地域からアメリカに来て生活してきたことがわかりました。自分のことも家族のことも誇りに思い、互いに尊重し合えるからこそ話してくれたことであるように感じました。誰でも受け入れる雰囲気が根底にあるからこそ、派遣生も快く受け入れてくれたのであらうと思います。

四つ目は環境が人を成長させるということです。派遣生は、2週間を通じて、英語の力を向上させるだけでなく、人との関わり方が積極的になり、自分から物事を知ろうと尋ねたり、自らが全力で楽しもうとしたりするようになりました。環境が整うことで人は何倍にも成長できるということを派遣生から教わりました。

今回の体験は、日本では知ることのなかったことがたくさんあります。このような体験ができたのは、千葉市国際交流協会の方々、日米協会の方々、ホストファミリーやROBSのみなさん、日本での準備に携わってくださった方々、アメリカでの生活の中で関わったすべてのみなさんが温かく私達を見守り、支えてくださったおかげです。教員として生活をしている中でこんなにもすばらしい機会をいただけたことに感謝し、今後の生活の中で生徒達に伝えていききたいと思います。本当にありがとうございました。

Seeing is Believing

Chaperon Miyawaki Misato

As the proverb goes, "Seeing is Believing." I realized what the word means through these two weeks.

We spent a lot of time with our host families and we could study at ROBS for a week. So, I could know American students' daily lives. I learned good points about the USA. I would like to introduce some impressed points of American life I experienced.

The first point is the relationship between children and their parents. American people shows their opinions and feelings honestly. It is true not only for parents but also for their children. I had dinner with my host family every day. Everyone talked about the favorite point of the day during dinner. I was very moved to see that they praised each other after someone talked. They always listen to their families because they were interested in each other, I thought. They had such a wonderful relationship.

The second point is all of things I learned at ROBS. At the first day, when I went there, I saw classrooms with different designs from the one I saw in my English textbook. Students had their own lockers and they changed their stuff during the break time. There was a cafeteria and we enjoyed lunch there. We could take lessons with eating snacks. I got confused at first, but enjoyed the interesting lessons.

The teachers asked their students "Why do you think so?" many times. We should teach students not only about knowledge, we know. So, the skills teachers used in their lessons were good tips for me to improve my lessons in Japan.

Next, I felt the kindness of people and the culture to accept anyone. Not only me but youth ambassadors really enjoyed our two weeks because all the people we met were so kind and they were interested in Japan. There were many students who had various races. I asked some students about their ancestors and they told me their histories. They were always proud of their histories and themselves, so they could share times with anyone though they met others for the first time.

This exchange program changed me and youth ambassadors' minds, ideas and actions. I learned that environment makes people. Of course, youth ambassadors improved their English skills. Not only that, they became positive to talk with people, started to ask what they want to know and enjoyed things as much as they could. I thought they could do because it was such a nice condition to do.

I would like to thank all of the people that supported me and youth ambassadors. I also thank to this great chance. I will tell my students about what I learned from this experience. Thank you for everything. It was a wonderful time.

5. 記録写真（思い出の写真）

(1) 萱原 千尋



ROBS にて、同じクラスだった友達と



アストロズの試合にてホストファミリーと全員で！



ヒューストン日米協会 Farewell Party
にて Pasty さんと



帰国する前日に行ったレストランでホストシスターと



アンバサダーの皆さんと、オブジェの前
で撮りました。
「ヒューストン最高！！」



ミニッツメイドパークにて

(2) 戸崎 奏



ホストファミリーと一緒に教会に行きました。スピーチは緊張しましたが、とても良い経験になりました。



車から見たヒューストンハイウェイです。毎朝、この道路を通って学校に通いました。



学校帰りにアイスクリームショップに行きました。お試しをしてからフレーバーを決めるところができました。



近所のプールでよく泳ぎました。私は水泳が苦手だったのですが、好きになりました。



お別れパーティーではよさこいソーランを踊りました。他のホストシスター、ブラザーにもよさこいを教えてあげて、みんなでも踊りました！



帰国の日の朝、今まで撮った写真でアルバムを作ってくれました!!メッセージも書いてくれていて、とても嬉しかったです。

(3) 永野 友莉



休日にヒューストン自然科学博物館に
行った時の様子



大切なホストファミリー



仲良くなったROBSの友達



ホストシスターと日本の折り紙で
鶴やくす玉など作った



ホストシスターのLucyと野球観戦



日本食のうどんを作って
とても喜んでもらえた

(4) 原田 奈和



ホストシスターとその友達が
歓迎会を開いてくれた



この他にも赤飯、卵焼き、味噌汁、
抹茶プリンを振る舞った



ストリートアートの前で
みんなと



ホストシスターとホストファザーと
野球観戦



フェアウェルパーティーで
校長先生と記念撮影



学校最終日に友達と最後の写真

(5) 堀辺 蒼空



日本食（白玉団子）をホストマザー、バディと作りました。きな粉をかけると、ホストファミリーが予想以上に喜んで、食べてくれました。



学校で迎えの車を待ちながらの一枚。迎えの車が校舎前まで来るのにとても時間がかかるので（写真奥、ずらりと並ぶ車）皆で話して時間を潰します。



マイクラフトが好きなバディとマイクロソフトの前で。現地ではマイクラフトがとても人気で多くの中学生が遊んでいました。



Farewell Party で撮った家族写真。普段は離れた場所で暮らしているシスターも来てくれました。（写真左）



ヒューストン動物園で陸ガメと。アリゲーターや熊など様々なアメリカの固有種を見ることができました。
（写真はカメの餌やり体験）



野球場にて。私がホストファミリーと行った野球場にはプールやバスケットコート、遊具などがあり、小さな子どもや野球にあまり興味がない人でも楽しめるようになっていました。

(6) 引率者 宮脇 美郷



休日に出かけた The Museum of Fine Arts にてホストシスター達との一枚。二人ともとても可愛いお姉さん達でした。



NASA のロケットの大きさに驚くばかりでした。ミッションコントロールの説明など興味深い話も聞くことができました。



ROBS 登校後、先生方に挨拶しました。どの先生もとても親切で、実りある日々を送ることができました。生徒達が自信を持って生活できたのも、先生方のおかげです。



ミニッツメイドパークにて。試合も白熱してとても盛り上がりました。スポーツは世界共通で熱くなれるものだと実感しました。



昨年度の派遣生(現在高校生)に会うことができました。今でも、日本での思い出は忘れられないと話してくれました。



ホストファミリーと一緒に。いつも優しく多くのことを教えてくれました。マザーやファザーの作るごはんがおいしかったです。

令和元年度 青少年交流事業
アメリカ・ヒューストン市派遣 帰国報告書

発行 令和元年 11月発行
編集・発行 公益財団法人千葉市国際交流協会
〒260-0026
千葉市中央区千葉港 2-1
千葉中央コミュニティーセンター 2階
TEL : 043-245-5750
FAX : 043-245-5751
URL : www.ccia-chiba.or.jp/